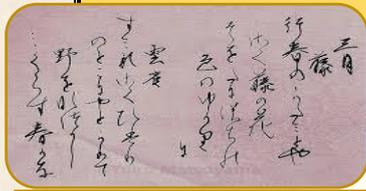




学校だより

9月号

文京区立第一中学校 令和6年9月26日(木)



紙

校長 田島 佳子

和紙の原料は、主にコウゾ、ミツマタ、ガンピの3種類の植物からとれる繊維です。

今年、大河ドラマで平安時代をやっています。今も貴重ですが、当時も和紙は大変貴重でした。漢字やかなで適する和紙は異なりました。ドラマの中で越前和紙がでてきましたが、日本での最古の和紙とされています。光沢や艶があり、滲まず、書きやすく、薄くても丈夫で長持ちする和紙が最高級品とされました。日本には三大和紙と呼ばれる和紙があります。岐阜県的美濃和紙、福井県の越前和紙、高知県の土佐和紙です。簀(す)と呼ばれる繊細なすだれのようなものを桁(けた)という木枠に入れて水と植物の繊維の入った紙床(しと)から紙を漉いていきます。私はとても薄くて白く手触りが柔らかい埼玉県の細川和紙が好きです。埼玉県の小川町と東秩父村に工房があります。3年ほど前の春休みに東秩父村にある和紙の里で紙すき体験をしました。庭に咲いている花や葉を採って和紙に載せると、手漉きの押し花和紙ができます。葉書等を作成しました。今は和紙を作る簡単な手漉きキットが売っているので、孫娘と夏休みに牛乳パックのリサイクルとして押し花にしておいた紫陽花を置いて手漉き押し花和紙にして葉書やメモ用紙を作成しました。

少し前にテレビで万年筆に合う紙について放送していました。いまは万年筆を使う人は少ないですが私の父の机にはいつもインク瓶と万年筆がありました。今も数は少ないですが愛好家がいるとのこと。インクで書くので紙によっては滲んでしまい文字が判別できなくなってしまうようで、万年筆の愛好家達は、紙にもこだわりを持っています。外国の愛好家達が使っているノートは日本製とのこと。そのノートはいわゆる見た目は普通の大学ノートと呼ばれるものですが、そのノートで使っているフルース紙は他の紙と異なり、和紙のように簀で何回も漉いてあります。光にかざしてみると一目瞭然で簀の後が見えます。そして本当に万年筆のインクが滲まないのです。さらに糸で紙を縫って止めてあります。私は万年筆を使っていませんが、どんな書き味なのか知りたくて、注文して買ってしまいました。今、仕事で使っている手帳に挟んで会議などの内容を記録するときに使っています。「1万年もつ紙」と言われているとのこと。そのノートは、たったの3人で作っているのです。海外からの注文や特注品、普通にお店に並ぶノートなど多くの種類や大きさがあります。

紙の材料である木や植物を守るためにペーパーレスは必要なことかもしれません。紙のリサイクルも限りある資源を次世代に引き継ぐために大事なことです。だからといって、美しい和紙に書かれた墨の文字の文化を捨ててはならないのです。一度失ったものはそう簡単に戻りません。

紙として残すもの、電子化していくものを見極める目をもつことが大切なのです。

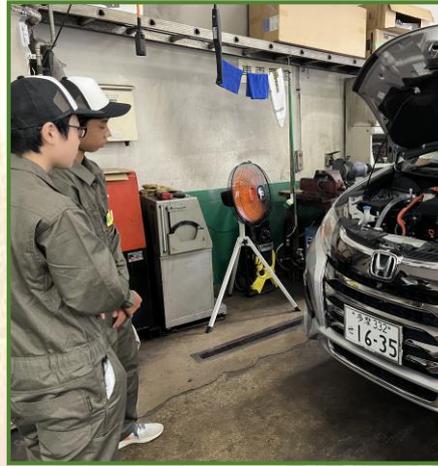
大事な紙だからこそ、後世に残したいのです。



八ヶ岳移動教室 9月11日～13日



職場体験 9月11日～13日



修学旅行 9月17日～19日

